

学校評価の考察

1. 教職員

- ほとんどの項目で概ね 90%以上が「水準を満たしている・上回っている」という回答結果でした。特に「Q6：主体的に対応できる力の育成」「Q11：いじめや問題行動の未然防止」「Q17：学舎連携」は 95%以上が肯定的な評価でした。
- 「Q6 主体的に対応できる力の育成」は前年度と比較して意識が高い傾向が現れています。
- 反面、昨年同様「Q7：ICT 教育の充実」で、25%が「水準を下回っている」と自信のなさが評価に現れております。今後も実用的な活用推進研修や OJT による資質向上の工夫等により、教職員が自信を持って ICT 教育を実践できるよう努めてまいります。
- また、「Q9：障害者雇用制度や生徒の進路先について」で、29%が「水準を下回っている」と評価しています。「進路指導の手引き」冊子配布と合わせて、これまで以上に進路指導部や外部専門家を活用するなどして、障害者雇用制度や生徒の進路先について全職員への理解啓発と保護者への説明に努めてまいります。

2. 保護者

- ほとんどの項目で概ね 90%以上が「良好」という回答結果から、本校の教育にご理解とご協力いただいている様子が見えます。
- しかしながら、今年度も Q12：「就業体験を通しての生徒のあいさつ・言葉使い・身なり」や「言葉づかいの指導」で物足りなさを感じている保護者が一定数（16%）いるため、本校オリジナル「あいさつ・言葉づかいの心得」等の指導の工夫や生徒と教職員の日常的な会話の在り方を改善してまいります。
- また、Q7：学校の施設・設備に対する「水準を下回っている」が保護者 14%います。県教育庁の担当課と調整の結果、3月に懸案だったクーラーの大規模修理及び畳の全面張替えを行う予定です。

3. 生徒

- ほとんどの項目で概ね 80%以上が「良好」という回答結果でした。
- Q7：学校の施設・設備に対する「水準を下回っている」が 38%と突出して悪い評価でした。築 30 年以上の老朽化した寄宿舎の課題は、日常生活に直結しているため、生徒が身近に感じるストレートな意見だと言えます。県教育庁の担当課と調整の結果、3月に懸案だったクーラーの大規模修理及び畳の全面張替えを行う予定です。今後も寄宿舎の改修等に向けて積極的に関係課と連携していきたいと思っております。
- また、Q18：「学校での特別指導」への不満（18%）、Q20：「寄宿舎での日課指導」への不満（24%）は、は指導を受けた生徒の本音のようです。また、Q24：「カウンセリング的な姿勢ではなしを聞く」についての不満（19%）があることから、指導する教職員と指導を受ける生徒の相互理解を通してより良い行動を身につけるためにどうすれば良いかを共有する必要があり、そのためには教職員側の「生徒の話を聞く姿勢」の改善が必要だと考えます。また、生徒組織の生徒会や舎友会が積極的にその課題点を取り上げ、明るい学校や楽しい寄宿舎生活ができるよう支援したいと思っております。

4. まとめ

- 今回、浮き彫りとなった本校職員の「ICT 活用」、「障害者雇用制度等の理解啓発」、学校側の「積極的な寄宿舎改修の取り組み」、「『あいさつ・言葉づかい』指導の改善」に今後努めてまいります。
- また、「『学校での特別指導』『寄宿舎での日課指導』の在り方」について、まずは学校のルールについて教職員・生徒・保護者が共通理解できる形で再検討し、人権を踏まえた学校生活を通して働く力を身につける学校・寄宿舎をめざします。